



個人情報が含まれるため、
掲載を差し控えさせていただきます。

ウエストを減らそう!

理工・公開講座



理工学部の第41回公開市民大学講座が3月3日、同学部船橋校舎大講堂で

開かれた。写真。今回は「健康を考える」を統一テーマに、3月末まで4回の講座が予定されており、1回目のこの日は駿河台病院の岡本真由美内科外来医長による「メタボリックシンドロームの予防と治療」。年配の男女約250人が訪れた。

岡本医長は「メタボリックシンドロームは運動不足や過栄養などによる内臓脂肪の蓄積が主な原因。動脈硬化を招き、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などを引き起こす危険性が高い」と説明。歩行やサイクリングなどによる運動療法と、脂質などを控える食事療法が治療の基本だとし、「内臓脂肪はたまりやすいが燃焼しやすい。ウエスト周囲径を1センチでも減らす努力を」と呼び掛けた。

同協定では、食のまちとしての環境整備を目指して同市が掲げる「フードバレー構想」の推進等産業振興や教育・文化の発展など5項目で連携をうたっている。

山田顕義の「建白書」入手

資料館設置準備室

資料館設置準備室はこのほど、山田顕義(学祖)が明治4年に岩倉使節団に理事官として随行し、帰国後、政府に提出した「建白書」(版本)を入手した。

この建白書は欧米の軍事に関する調査を基にまとめたもので、「兵は凶器なり」と現状での軍備拡張路線を批判し、軍事力整備の前に、法律や教育組織整備の必要性を述べたことで知られる。

版本は縦19・3センチ、横13・5センチ33丁。表紙には「山田顕義 建白書」「馬喰町二丁目 英蘭堂 嶋村利助」の記載がある。

富士宮市と協力協定結ぶ

国際関係学部

国際関係学部・短期大学部(三島校舎)が静岡県富士宮市と連携協力協定を締結。昨年12月18日に富士宮市役所で調印式を行った。式後、佐藤三武朗学部長が「コミュニテ

刊行物

「へ勝負脳の鍛え方」大学院総合科学研究科 教授・林成之著 (東京都文京区音羽2-12-21、講談社、700円、税別)